

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援リフト			
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日	～	令和8年 2月 21日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 1日	～	令和8年 2月 24日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達に合わせてプログラムの取り組みに変化をつけ、充実した取り組みになるようにしている。	同じプログラムでも、発達に合わせてアプローチを変えている。子どもたちがチャレンジできる環境を整え、自ら意欲的に取り組めるように取り組みのアプローチを職員同士で話し合っている。	各職員が自分の得意な分野で力を発揮しながらこどもにとって良い支援環境を作っていきたい。そのために個々のスキルアップが大切になってくるため、個々に対して目標設定を行い取り組んでもらう。
2	物事の捉え方や向き合い方をしっかりと子供に伝えられる。	あえて上手くいかない場面やネガティブな感情を持つ機会を作り、それに対してどのように気持ちを切り替えてポジティブな行動に繋げるかを大切にしています。	一人へのアプローチが他者へのアプローチにも繋がっていることをより実感しているため、継続していきたい。
3	全職員がこどもの行動心理を理解し、愛情と受容を持って接してくれるので不安が強いお子さんでも安心感を得られ過ぎやすいです。	支援者も本気で遊びに参加し、悔しいが姿やそこからの切り替えやコミュニケーションをに自然と触れる機会を作っています。事業所側が提示することだけに取り組むのではなく、こども達の意見や要望を聞き、支援内容に取り入れています。	様々なルールや取り組み方を用意し、利用者に今必要な支援をピンポイントで提供できるようにしていくよう検討します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就学移行支援の体系化に向けた準備段階:移行支援を体系化する余地があり、整備を進めることでより円滑な学校移行が可能になります。	保育園等との情報共有は適宜、実施しておりますが、就学予定の小学校や特別支援学校との情報共有は、まだ実施したことがありません。	今後、保護者様と相談し、必要に応じて小学校等との情報共有を検討していきたいと考えています。なお、就学移行に向けた内容の支援は、事業所で実施しておりますので継続してまいります。
2	保護者同士の交流を創出する余地がある:保護者様のニーズに応じた交流機会を設けることで、家庭間の支援力向上につながる可能性があります。	保護者会や父母の会の開催要望が少ないため、周知方法や開催形式が確立していない。	保護者様からの開催要望が少ないため、個別の相談等を実施しております。今後、要望が増えてきましたら、開催等も含めて検討したいと考えています。
3	通所時の様子の共有が不十分な面がある。	連絡帳アプリで写真の共有等は行っているが、モニタリング以外でも情報共有できる時間があるとより良いのかもしれないです。	2～3ヶ月に1度面談できる機会を作っていきたいです。